

東京の大学を知ろう!(XI)

～シリーズ:大学について知ろう(その20)～

数えてみたら国公立大・私立大あわせて50校ほどの大学を訪問し、可能な限りその大学の学食で昼食をとってきました。そこで今回は私が選ぶ学食メニューベスト5を紹介することにします。ただし日本の大学すべてを見たわけでもなく、またそれぞれの学食のメニューをすべて食べたわけでもないので、これから紹介する順位は完全に私の独断と偏見によるものと承知しておいてください。

第5位は東京大学中央食堂の「赤門拉麺」(中444円、大516円)。安田講堂の前庭の地下にある食堂(2年前に改修)で、生協系にもかかわらず存在する名物メニュー。見た目は真っ赤な汁なし担々麺ですが、それほどは辛くない。改修にともなって値上げしたのが残念。**第4位は慶應義塾大学三田キャンパス山食の「カレー」**(310円、大盛り360円)。山食は昭和12年開業という、学食の草分け的存在とも言うべきという食堂で、カレーも建物も作っているおじさんも歴史を感じさせます。自分で福神漬けを好きなだけ盛りつけ、デザートにパイナップル(100円)を食べれば超幸せな気分になります。**第3位は日本大学法学部本館食堂の「東京ブラック・トッピングカレー」**(370円)。日大法学部は水道橋駅近くの一般道路に面したビル群で(近くの日大経済学部も同様)、キャンパスと呼べる物はありません。あまり期待せずに入った本館地下1階にある食堂の「東京ブラックカレー」がなんと美味!今まで食べた学食のカレーの中では一番です。**第2位は駒澤大学学生食堂の「駒大スペシャルステーキ」**(ライス・味噌汁付き500円)。駒澤大の学食は銀座スエヒロが入り数年前にリニューアルされ、中でも一押しメニューがこれ。厨房のおじさんが鉄板にビーフステーキ・豚肉の炒め物・フライドポテト・ブロッコリーを載せ、その場で焼いてアツアツを提供してくれます。これが1コインって超お得!そして栄えある**第1位は成蹊大学学生食堂の「油淋鶏定食」**(420円)!というわけで今回は2度訪れてそのたびに油淋鶏定食を食べている成蹊大学を紹介することにしましょう。

以下の文章は**6年前(2014年)**に私が勝手に行き、さらに**4年前(2016年)**に生徒の保護者とともに見学に行ったときのことを書いたものです。東京の有名私立大学の雰囲気をお楽しみください。

SEIKAI UNIVERSITY

成蹊大学に行ってきました…

日本一住みたい街にある成蹊大学の学生は大人っぽい?

成蹊大学の最寄り駅はJR中央線・総武線の吉祥寺(これを「きっしょうでら」と読むと田舎者です!)。そう、かつて“住みたい街第1位”となったことで有名なあの街です。新宿から快速でわずか13分で到着。駅から歩くこと15分、成蹊大学が見えてきました…。

土曜日だというのに成蹊大学には次々と人が入っていきますが、みんな大人っぽく「さすがお坊ちゃま系4大学(学習院大・武蔵大・成城大・成蹊大)」の一つと感心。男子はワイシャツやスーツ、女子はほとんどが紺のワンピース姿で、中には子どもの手を引いている人も…?! 彼らは大人っぽいんじゃなく、完全に大人じゃん!! いったいどういうこと? 入口に「成蹊小学校第1回入試説明会」の立て看板を発見し納得。この

キャンパスには小学校から大学まで成蹊学園の学校がすべて入っており、私も成蹊小学校入学を目指す子どもの親のような顔をして堂々と成蹊大学のキャンパスに入ったのでした…。

正門から続くケヤキ並木は見事です。その先に正面の渋いレンガ色が印象的な風格のある本館が見えます。この渋いレンガ色は他の建物にも一部分ずつ必ず使われていて、なんだかステキです。ところで、成蹊大学出身の有名人って誰? みんなが知っているのは安倍晋三、中井貴一、高島彩あたりでしょうか…。さて、本館の西側にはガラス張りの図書館がありますが、残念ながら事前予約していないと学外者の見学は無理というわけで、すぐ隣の今年完成したばかりの新6号館へ(ここの地下にも自家製焼きたてパンや生パスタも食べられるレストランがあります)。さらに校舎の奥には全天候の陸上競技場トラック(兼ラグビー場)とサッカー場を見学し(その先の野球場と馬場の見学は断念)、いよいよ学生会館の学食へ突入です…。

成蹊大学名物「油淋鶏」を食べた私に吉祥寺駅前で誘惑が襲う

食券売り場の前で人生の悩みにふけりながら周りを見ると、「成蹊名物^{ユウリンチー}「油淋鶏定食」」の文字を発見しこれに決定!(420円)。鶏のムネ肉をサクッと揚げ長ネギを振りかけて甘酢のソースをかけてあるのですが、これは美味しい!! ただし野菜は肉の下に申し訳程度のモヤシがあるだけで、定食と言いながら味噌汁・スープ類は付かないのが残念です。でも油淋鶏そのものが美味しいので☆3つやりましょう…。昼食を食べた私は成蹊大学に別れを告げ吉祥寺駅に戻りますが、駅前アーケード街近くで行列を発見してしまいます。実はここ吉祥寺はラーメン激戦区としても知られる場所で、私の発見した行列はラーメンの名店「ホープ軒」なのでした。私の頭の中で悪魔と天使の葛藤が始まります。「食べたい」「食べてはいけない」「二度と来れない」「食べたら太る」「歩けば大丈夫」…結局、誘惑に負けた私は15分後カウンターで「中華そば1つ!」と叫んでいたのです。さすがに油淋鶏定食を食べた直後のラーメンは効きます。もう満腹、これ以上は無理…!

成蹊大で結婚前のカミさんと同姓同名の事務職員に会い、またしても油淋鶏を食べる

五日市街道から曲がった瞬間に見える、正門へと続く櫛並木とその奥に煉瓦造りを基調とする本館の姿にPTA大学見学ツアーのバスに乗っている元女子高生たちの目が輝きます。バスを降りると綺麗で洗練とした入試センターのお姉さんが登場。実はこのお姉さん、私のカミさんの結婚前と同姓同名なのです。その事を伝えると「奥様を呼ぶのと同じように好きに呼んでください」というので、私は心の中で彼女を「ボス」と呼ぶことにしました。そのボスに率いられてまずは自慢のスポーツ施設を見学。続いて本館大講堂で真面目そうな男性職員による大学説明(ドラマのロケでも使用されたシックな大講堂の中で、彼女たちは完全に女子大生気分です)。説明の後にはボスが連れてきた現役大学生(男女2名ずつ)によるキャンパスツアー。ツアーの目玉は何ととってもグッドデザイン賞を受賞したという情報図書館。ガラス張りの吹き抜け中央空間にニョキニョキとキノコのような丸っこい部屋(プラネットと呼ばれるグループ閲覧室)が浮かんでおり、各階の窓側には書架を囲むように個室が配置されていて、近未来的な知的空間が広がっています(残念ながら内部写真撮影不可でした)。



ところで、学生ガイドが盛んに自慢していたのが、成蹊大キャンパスが桐谷美玲主演映画『ヒロイン失格』やドラマなどのロケ地として利用されていることでした。キャンパスツアーの後はお待ちかねの昼食。時間が押していたこともあって、ここは迷わず学生人気No1の油淋鶏定食(420円)をチョイス、味噌汁(50円)をつけて470円のランチです。これを食べるのは2回目ですがやはり美味しい。しかし、N先生は「ご飯の量を減らしてもっと野菜が欲しい」と主婦らしい辛口コメント。この意見に頷きつつ、実は前回来たとき、これを食べた後で吉祥寺駅前でホープ軒のラーメンを食べたなんてとても言えませんでした…。バスに戻ると、ボスが来ていて「成蹊大の願書を欲しい人に差し上げてください」と言うので、元女子高生に欲しいか聞くと、「タダなら貰っとくわ」という声とともに何人も手を挙げるではありませんか! 大阪人のようなたくましい元女子高生を乗せてバスは成蹊大を後にしたのでした…。

